

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立成章中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

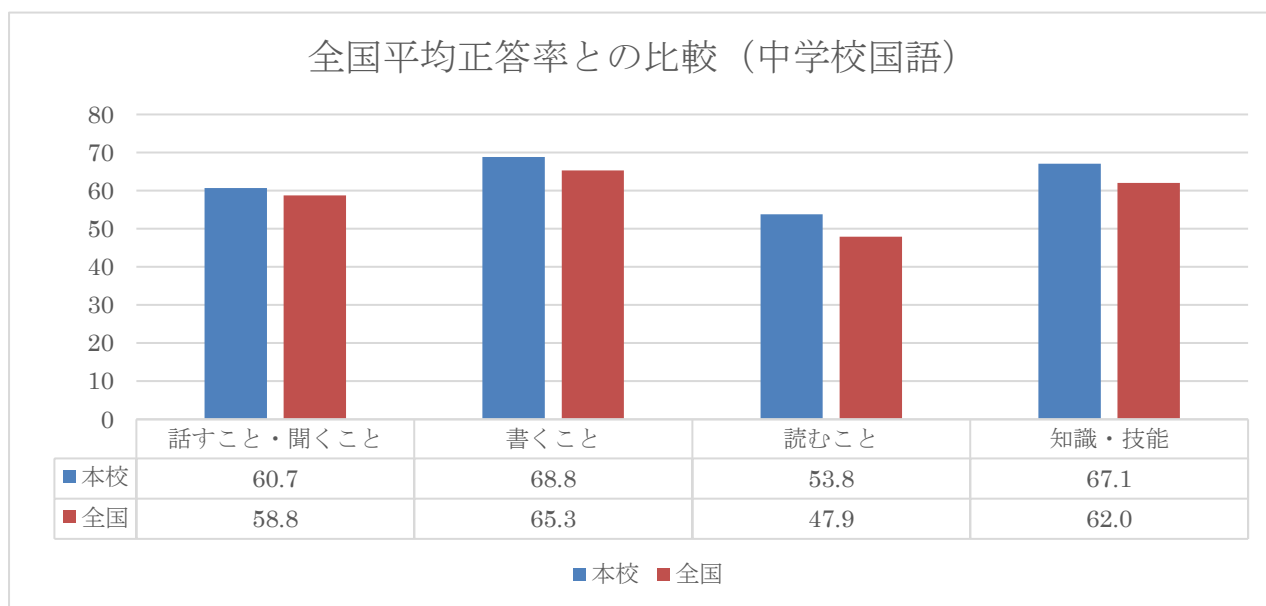
児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「知識・技能」の全てで、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、ほとんどの設問で全国平均と同様または低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を 5.1 ポイント上回りました。中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を大きく上回りました。また、「読むこと」では、文章と図を結び付け、その関係を踏まえ内容を解釈する問題では、全国平均正答率を 17.5 ポイントと大幅に上回り、普段から、漢字や言葉の学習、図やグラフなどを用いての文章の読み取りに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。

課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 48.1%は、全国平均正答率 45.5%を上回っているものの、苦手になっている生徒が多くいます。生徒の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

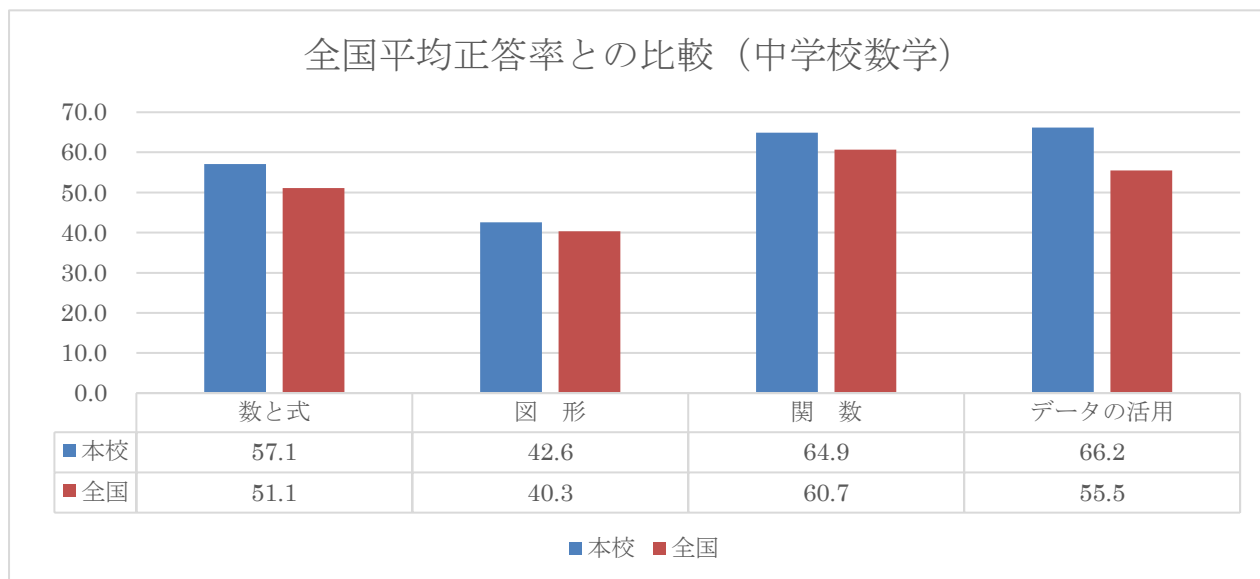
【学校では】

- 生徒が主体的に学べるように、インタビューやレポート作成、目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書くなど、言語活動の場面を数多く設定し、生徒同士が関わり合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を確実に習得させるとともに、実際に書く活動を通して、正しく豊かな表現力が向上するように指導していきます。

【ご家庭では】

- 文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。朝のニュースや出来事などについて、定期的に話をしてみてください。
- 語彙力が高くなると国語の力も高くなるといわれます。文学・科学・歴史・地理・芸術…様々なジャンルの本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数(数学)



(1) 結 果

「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全てで、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、ほとんどの設問で全国平均と同様または低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、記述式の問題の平均正答率が、全国平均正答率を全て上回りました。自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書く機会を増やすなどの授業改善の成果が表れていると考えられます。課題は、「関数」の領域の、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかをみる問題の正答率が全国平均を下回っていました。

式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、実感を伴った理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 答えを出すだけでなく、答えを求める過程を考えさせたり、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を関連付けさせるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、確認テスト、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子様の学習の様子やテストをご覧になり、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学が好きになるきっかけは、問題を解くことができた喜びの経験や、習ったことが生活の中で使えて、「便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「コンピュータや時計」「用紙の縦横比」「投げ上げたボールの描く軌跡」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには数学を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	79.5%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	39.3%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	56.6%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	32.8%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	36.9%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	69.7%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.4%	77.5%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

自己肯定感の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも低い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	4.9%	9.2%
「2時間以上、3時間より少ない」	18.9%	22.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	39.3%	32.6%
「30分以上、1時間より少ない」	22.1%	18.4%
「30分より少ない」	6.6%	10.4%
「全くしない」	6.6%	6.6%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の生徒が3割以上おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても学年の状況に応じて取り組み、定着しつつあります。
- 計画的にキャリア教育に取り組むことで学習の必要性を知らせるとともに、テスト前にはテストガイダンスを示し、計画的に学習に取り組めるようにします。

【ご家庭では】

- 学習習慣の定着には、学習しやすい環境を整えることが大切です。お子様が自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 学習状況を確認することも大切ですが、お子様から学習内容を教えてもらう声かけができれば、学習内容を整理し、アウトプットすることで学習内容の定着を図ることができるといわれています。